

令和6年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

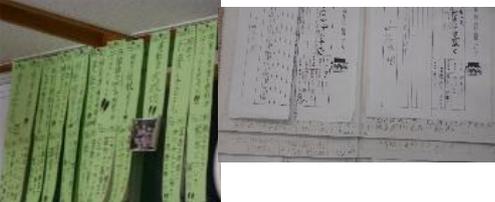
学校名	府中町立府中小学校	校長	青木 真智子	生徒指導主事	中村 佳代子
取組事例名	『自ら学び、ともに伸びる』ための学級活動の充実に向けて』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
<ul style="list-style-type: none"> 各学級の学級活動の時間を充実させることを通して、「なかまと安心して過ごすことができる」「学校の中で自分が認められる場がある」学級の基盤を作る。 学級の特別活動や学年を越えた異年齢集団の活動を通し、計画を立てて役割を分担し、協力することで自主的、実践的に取り組もうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級内で自ら課題発見をし、主体的によりよい解決にむけて話し合おうとする児童。 自分の役割を果たしながら、自分の良さに気づくとともに、他者と協力して活動しようとする児童。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫										
<p>1 学校経営目標の方策の一つに「学級活動の充実」を掲げ、年度当初から計画的に職員研修を設け、学校全体で学級力向上を目指した。</p> <p><全体研修実施計画></p> <table border="1"> <tr> <td>① 学級開きや係・当番</td> <td>⑤ 掲示物から学ぶ絆づくり</td> </tr> <tr> <td>② 学級経営について(認め合い)</td> <td>⑥ 特別活動について</td> </tr> <tr> <td>③ 生徒指導提要から人間関係づくり</td> <td>⑦ 安心できる学級づくり(演習を通したいじめ防止研修)</td> </tr> <tr> <td>④ 授業研究(実際の学級会から学ぶ)</td> <td>⑧ 話し合い活動について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑨ 来年度に向けて(シラバスの見直し)</td> </tr> </table> <p>2 ④の授業研究を通して、学級会の在り方について研修した。</p>  <p>3 各学級での取り組みを報告</p> <p>なかよし学年での交流会、学級の課題や運動会スローガンについての話し合い、掲示物の充実など、各学級で工夫して取り組むことができた。学級をよりよくするために子どもたちが常に支え合って目標にチャレンジし、協調的な関係を創り出そうとする姿が見られた。異年齢集団の活動でも主体的に話し合い、関わりあう姿が見られた。</p> 	① 学級開きや係・当番	⑤ 掲示物から学ぶ絆づくり	② 学級経営について(認め合い)	⑥ 特別活動について	③ 生徒指導提要から人間関係づくり	⑦ 安心できる学級づくり(演習を通したいじめ防止研修)	④ 授業研究(実際の学級会から学ぶ)	⑧ 話し合い活動について		⑨ 来年度に向けて(シラバスの見直し)	<p>児童にめあてをもたせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級会では、何のために話し合うのか、目的を丁寧に説明した。 異年齢集団活動では、リーダーを中心に主体的な取り組みになるように活動を仕組んだ。 <p>児童の意欲を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> 司会団、学級会の流れやヒントカードの準備、学級会を開く前に事前準備(意見の整理等)をした。  <p>児童の頑張りを認め、価値付けるために</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の学びをまとめるポートフォリオの作成や学級会の足跡掲示 
① 学級開きや係・当番	⑤ 掲示物から学ぶ絆づくり										
② 学級経営について(認め合い)	⑥ 特別活動について										
③ 生徒指導提要から人間関係づくり	⑦ 安心できる学級づくり(演習を通したいじめ防止研修)										
④ 授業研究(実際の学級会から学ぶ)	⑧ 話し合い活動について										
	⑨ 来年度に向けて(シラバスの見直し)										



3 成果と課題

<p>○低・中学年は、ペアトークからはじめ、班での話し合い活動から折り合いをつけていくという段階的な活動を仕組むことができた。高学年は、児童が自分たちで課題を見出し、その課題を解決する話し合い活動をする事ができた。</p> <p>○今年度学級活動の充実に向け校内研修を9回開き、学校全体で安心・安全な風土の醸成作りに努めることができた。</p> <p>○評価指標である児童アンケート「学校の中で自分が認められる場があります。」の肯定的評価が5月の現状値が87%であったが、1月は91.8%となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業改善を含め、特別活動についての校内研修の継続や、安心して過ごすことができる学級づくりが必要である。 ●集団における自己有用感を感じる取り組みの充実や、効果的な教師の価値づけについて引き続き検討していきたい。 ●特別活動のシラバスの見直しを行ったので、特別活動の取組を学校全体として捉え、開かれた学級経営につなげていくことで、低学年からも「子どもたち自身で学級をよくしていく」という自治的風土を築いていく。
